

## 和歌山県・平成27(’15)年国体開催へ高まる期待

～元気を取り戻すことはできるか～

日本不動産研究所 和歌山支所  
不動産鑑定士 土田 正顕

第70回国民体育大会(愛称:紀の国わかやま国体)と第15回全国障害者スポーツ大会(愛称:紀の国わかやま大会)が、平成27(’15)年に和歌山県で開催される。和歌山県での国体開催は実に44年ぶりのことであり、「躍動と歓喜、そして絆」をスローガンに、国体については、平成27(’15)年の9月26日(土)から10月6日(火)の11日間にわたり、全国障害者スポーツ大会については、同年の10月24日(土)から10月26日(月)の3日間にわたり、和歌山市を中心に、県内各地で開催される。



「平成27(’15)年国体・大会のロゴデザインとマスコット」

※出典：紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会実行委員会のホームページ

前回、昭和46(’71)年に和歌山県で開催された第26回国民体育大会(愛称:黒潮国体)では、県営紀三井寺運動公園や秋葉山公園県民水泳場などのスポーツ施設、国体道路等のインフラ施設等が整備された。また、スポーツ教室の開催や黒潮国体を記念して、昭和47(’72)年から県民総参加スポーツ大会が始まるなど、様々なスポーツ振興策が進められ、国体の開催目的である「地方スポーツの振興」に大きく寄与した。

今回の国体においても、「和歌山を元気にする国体」、「国体を契機としたスポーツの振興」、「活力に満ちたふるさとづくりに寄与する国体」、「和歌山の魅力を全国に発信する国体」の4つの基本目標が定められ、開催に向けて、道路等のインフラ整備等の準備が急ピッチで進められている。和歌山市内では、国体までの供用開始に向け、南港山東線、松島本渡線、西脇山口線などの幹線道路が重点的に整備を進められており、渋滞の緩和と、中心部へのアクセス機能向上が期待されている。また、今回の国体開催に向け、以下のような競技会場の建設・改修等も着々と進められている。

### 《建設・改修等が行われた主な競技会場等》 (下記写真参照)

#### 紀三井寺公園陸上競技場

概要：昭和39(’64)年に完成し、前回の黒潮国体のメイン会場となり、その後も数多の大会が開催された競技場で、平成25(’13)年3月に改修工事が施された。400m×9レーンのトラックと天然芝のフィールドから成り、大型電光表示板、夜間照明設備、約19,200席の観覧席を有する第1種公認の陸上競技場で、今回の和歌山国体のメイン会場となる。

#### 武道・体育センター和歌山ビッグウエーブ

概要：和歌山ビッグホール北隣に建設された県立体育館で、平成24(’12)年3月に完成した。地上3階建て、延べ床面積8,129.11㎡で、メインアリーナ、武道場、サブアリーナ等から成り、観客席2,000席(立ち見含む)を有する体育館であり、今回の和歌山国体では、柔道、フェンシング等の会場となる。

#### 秋葉山公園県民水泳場

概要：昭和41(’66)年に完成し、前回の黒潮国体の水泳競技会場としても使用された県営の水泳場で、平成25(’13)年9月に改修工事が施された。国際公認の50mプール10コース、25mプール8コース、幼児プール等から成り、約2,000名の観覧席を有する屋内温水プールで、今回の和歌山国体では、水泳競技の会場となる。

#### 県営相撲競技場

概要：平成25(’13)年4月に改修工事が施された、屋根付き広場内の土俵と収容人員3,000人の観客席を有する屋外相撲競技場で、今回の和歌山国体では、相撲競技の会場となる。



「紀三井寺公園陸上競技場」



「武道・体育センター和歌山ビッグウェーブ」





「秋葉山公園県民水泳場」



「県営相撲競技場」

近年、和歌山県では、地域経済の衰退、平成23(’11)年の台風12号による紀伊半島大水害、南海トラフ地震による津波災害の懸念等、暗い話題も多く、住宅地、商業地ともに、平成25(’13)年の地価公示価格の平均変動率が、4%台の下落と、全国平均、地方平均を大幅に下回っており、厳しい経済状況が続いている。そのような中、国体は地域経済活性化の大きなチャンスであり、国体に関連する経済活動は、大会施設の整備や大会運営をはじめ多くの投資、消費が行われ、県内への経済波及効果も大きく、さらに、大会終了後の和歌山県の経済にとってプラスとなる取り組みも期待され、経済波及効果を数百億円と推計する経済機関もある。平成24(’12)年に開催されたロンドンオリンピックでは、和歌山県出身の3選手がメダルを獲得しており(体操の田中和仁選手、田中佑輔選手、レスリングの湯元進一選手)、スポーツ王国として躍進している。今回行われる平成27(’15)年の紀の国わかやま国体が、基本目標のとおり、和歌山の魅力を全国に発信し、活力に満ちたふるさとづくりに寄与するなど、和歌山を元気にする国体となってくれることを期待したい。